

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 20 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23593189

研究課題名(和文)脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価

研究課題名(英文)Development and evaluation of nursing tools for promoting the sitting position without back support: a care diffusion program for stroke patients

研究代表者

桑本 暢子(大久保暢子)(Kuwamoto (Okubo), Nobuko)

聖路加国際大学・看護学部・准教授

研究者番号：20327977

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：脳卒中患者に対する背面開放座位ケアプログラムの定着を目指した看護師支援ツール開発のために、普及理論をもとに質的研究を行った。結果、促進因子は、認定/専門看護師がオピニオンリーダーとなり、コアナースの育成、多職種/家族の協力、病棟文化、電子チャートにケア項目として入れる、プログラムをアレンジする、相対優位性/試行可能性、/両立可能性が高いことであった。阻害因子は、看護師の異動、採用拒否者の存在、教材不足、複雑性/観察可能性の低さであった。促進/阻害因子の多さ、強さによって、導入/実施継続、中断が起こっていた。定着には、プログラムの重要要素は保持した上で内容を変化させることが重要であった。

研究成果の概要(英文)：A qualitative study was conducted, based on the diffusion of innovations theory, to develop nursing tools that help diffuse the sitting position without back support care for stroke patients among nurses. The following were found to be factors promoting the program: certified nurses or clinical nurse specialists acting as opinion leaders; development of core nurses; multidisciplinary/family cooperation; hospital ward culture; incorporation of care items in the electronic chart; program arrangement; and high relative advantage/trialability/compatibility. Impeding factors were: relocation of nurses; presence of nurses who refuse to use the sitting position without back support care; shortage of training materials; and low complexity/observability. Introduction, continuation, or discontinuation of the program depended on the number and intensity of promoting/impeding factors. It was considered important to modify the contents of the program.

研究分野：基礎看護学

キーワード：背面開放座位 脳卒中 普及 定着 看護ケア 看護技術 基礎看護学

1. 研究開始当初の背景

我が国の脳卒中患者は、寝たきりへの移行、社会復帰困難を伴い、急性期治療以後の看護・介護に対する課題は多い。同患者の寝たきり防止・残存機能の維持を目指し、一つの取り組みとして提供されているのが、背面開放座位である。背面開放座位は、両足底を床に接地し、背中をもたれさせないでベッドの端に座る姿勢のことを指し、自力で座ることが出来ない患者には保持具を使用することで、簡単に提供できるケアである。研究代表者はこの背面開放座位のプログラムを開発し、有効性の研究を行ってきた。有効性は示せたものの、各医療施設での背面開放座位ケアプログラムの定着率には課題があり、即対応できる相談者がいない、中途採用者や新人への指導者がいない等が理由で導入中止をする施設も認めている。

効果的な看護技術の定着は、多くの看護研究者が課題としており、開発されたプログラムを一時期指導していただくだけでは定着には至らず、途中で消滅する技術となる可能性が高いと言える。マーケティング分野で普及理論が広く利用されている。この理論は、商品や技術の普及・定着には、マーケティング分野の理論がそのまま適用するとは限らないものの、プログラムを導入する施設のオピニオンリーダーを焦点化するなど、既存の看護技術の教育方法に加えて、普及理論を取り入れて検討する余地は十分ある。

本研究は、脳神経系病棟における背面開放座位ケアプログラムの定着を促進するための看護師支援ツールを開発し、その評価を行うことを当初目的とした。しかし研究開始直後、普及理論専門家より、普及理論をもとに本ケアプログラム定着の要因を詳細に分析することが必要で、それには事例ごとの細かい分析が必要との助言を受けた。従って、本研究の目的を背面開放座位ケアプログラムの定着に向けて、普及理論をもとに、脳神経系病棟における背面開放座位ケアプログラムの定着に対する促進、阻害因子を明らかにし、定着の方略を提示することに変更した。

2. 研究の目的

背面開放座位ケアプログラムの定着に向けて、普及理論をもとに、脳神経系病棟における背面開放座位ケアプログラムの定着に対する促進、阻害因子を明らかにし、定着のために必要な方略の提示を目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 本プログラムの導入をしている・していた医療施設を対象に、ロジャーズの普及理論の観点から、定着プロセスの事例研究を行った。
- (2) (1)の結果とインタビュー調査より、定着の阻害因子、促進因子を明らかにした。
- (3) (2)の結果をもとに、定着のための看護師支援ツール(案)を見据えた定着のための方略を提示した。

4. 研究成果
(1) 普及理論による定着プロセスの事例研究：

合計7医療施設を対象に、ロジャーズ普及理論を基に事例分析を行った結果、3施設が継続しており、4施設が何らかの原因で中断をしていた。以下に定着のプロセスとして、代表例を示した。

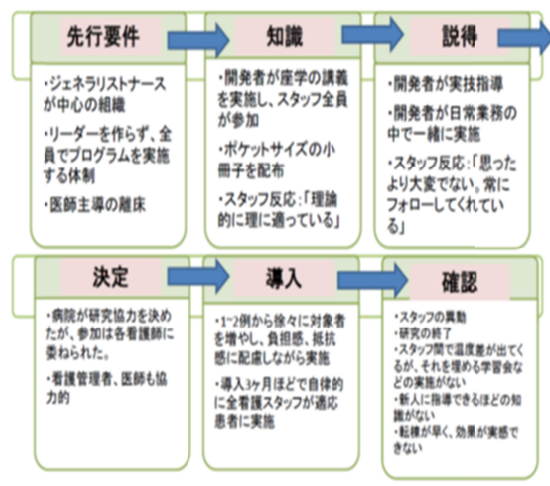


図1: A医療施設 中断

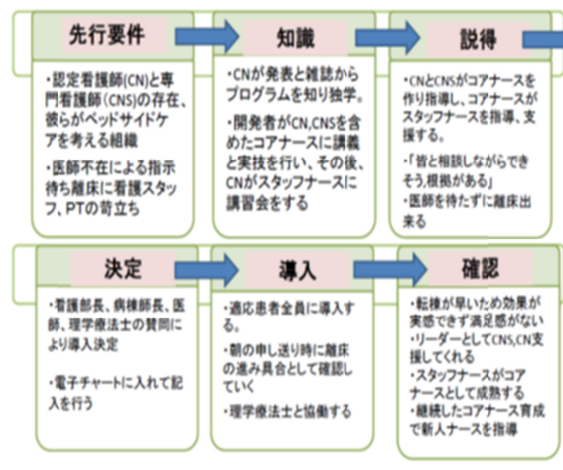


図2: B医療施設 (継続)

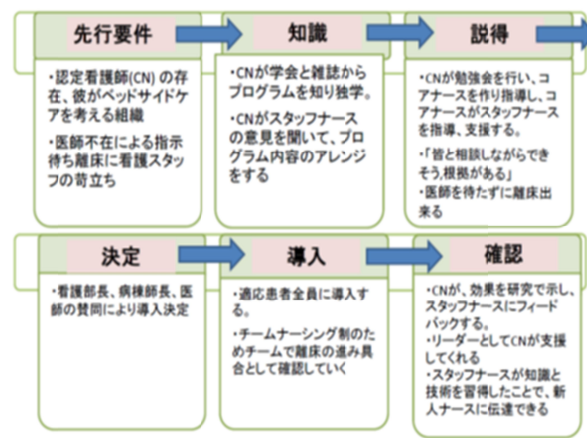


図3: C医療施設 (継続)

(2) 定着に対する阻害、促進因子の検討：

本プログラムを導入している・していた計7医療施設の看護師、医師、理学療法士を対象に、計38名にインタビュー調査を行った。

結果、促進因子は、「本プログラム導入を指導した開発者がチェンジ・エージェントとして効果的に機能したこと」、「中心となって実践したオピニオンリーダーの活動」、「看護管理者、医師をはじめとする多職種・家族の協力」、「病棟の文化」、「高い相対的優位性」、「試行可能性の高さ」であった。阻害因子は、「看護師の異動や退職」、「採用拒否者の存在」、「教材の不足」、「複雑性の高さ」、「観察可能性の低さ」であった。

促進/阻害因子の多さ、強さによって、導入/実施継続、中断が起っていた。

(3) 定着のための方略の分析と明確化：

研究(2)で得られた促進因子と阻害因子を踏まえ、オピニオンリーダーに向けた教育プログラム作成や、異動に左右されず縦断的に活動できる看護師を活用することが方略として必要と推測できた。さらにオピニオンリーダーとして認定看護師や専門看護師の存在が大きく、影響力を持っていたことから、本プログラム定着の促進のために、認定看護師や専門看護師を仲間としていくことが重要と捉えた。

本プログラムに対する複雑性の高さは、定着のために克服をする優先課題と考えられ、背面開放座位保持具の操作の簡便さを考慮した改良は不可欠であった(特許申請中)。

加えて、本研究から、エビデンスの高い革新的看護技術を医療施設に導入・定着させるためには、開発したプログラムが確固たる内容で作成されているのではなく、プログラムの中で効果を生むために譲れない核となる技術要素を保ちながら、それ以外の内容は、各医療施設の文化や物品、価値観などで変更可能な、柔軟なプログラム内容にしていく必要があることも分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

1. Okubo Nobuko, Sasaki Kyoko, Suzuki Kazuyo and Takahashi Kayoko.(2016): Clinical diffusion process of evidence-based nursing care: Discussion of sitting position without back support care program based on Rogers' theory, Journal of Japanese Neuroscience Nursing,掲載決定.

[学会発表](計13件)

1. 大久保暢子：患者の暮らしの将来像を創る エビデンスを踏まえたケアの展開 - 背

面開放座位にまつわる体験 -、NPO 法人日本リハビリテーション看護学会第27回学術大会 2015年11月21日。

2. 井上昌子、遠藤奈央、岩田明子、鈴木佳保子、男澤瑞希、大石貴寛、設楽恵子、松井憲子、古谷桂子、大久保暢子：高度救命救急センターにおける脳卒中患者への早期離床の取り組み 起きる看護ケアプログラムを導入して、第42回日本脳神経看護研究学会学術集会 2015年10月16日。
3. 大久保暢子：脳卒中患者の背面開放座位ケアプログラムの開発と課題,日本ニューロサイエンス看護学会 第2回学術集会,2015年7月27日。
4. 大久保暢子：脳卒中患者におけるエビデンスに基づいた看護実践 - 背面開放座位ケアプログラムの効果と普及 -,第40回日本脳卒中学会総会 Stroke2015, 2015年3月28日。
5. 大久保暢子：エビデンスに基づいた看護実践と看護ケアプログラムの開発 - 背面開放座位ケアプログラムの効果と普及 -,分野横断型医工学研究プラットフォーム BASIC 経済産業省 東北経済産業局 平成26年度地域新成長産業創出促進事業における「研究会」事業,2015年3月16日。
6. 大久保暢子：背面開放座位ケアプログラムの普及的研究について、(日本赤十字看護大学 本庄恵子科研基盤研究(B)「疾患や障害をもつ人のセルフケア能力を高める看護支援プログラムの普及と評価」特別講演(2015年3月14日東京)。
7. 大久保暢子：看護実践がサイエンスになるとき～背面開放座位の橋渡し研究から～,第5回看護生理学研究会,2014年8月17日。
8. Nobuko Okubo : Effectiveness of the 'Sitting Position Without Back Support' in Promoting the Reconditioning of Patients with Acute Cerebrovascular Disease,32th ANNUAL BARROW NEUROLOGICAL INSTITUTE NURSING SYPOSIUM. 2013年10月23日。
9. 佐々木杏子、大久保暢子、中山和弘、菱沼典子：「背面開放座位ケアプログラム」の定着の阻害要因の分析 - ICU導入での一事例 -,日本看護技術学会 第12回学術集会 2013年9月14日。
10. 大久保暢子、長谷宏明、川邊宗一郎、岸本剛志、井上健、品地智子、竹本修代、石井小百合、岸部友美、秋広由美子、原田恭子、鈴木智恵子、佐々木杏子：背面開放座位-さまざまに進化した保持具とその適応患者について-,日本看護技術学会,第11回学術集会,2012年9月16日。
11. 大久保暢子、キーセッション 看護の技を磨く、看護の技の普及：背面開放座位とその保持具,日本看護技術学会第10回学術集会,2011年10月29日。
12. 青池慎一、キーセッション 看護の技

を磨く。看護の技の普及：普及理論の観点から、日本看護技術学会第10回学術集会、2011年10月29日。

13. 古川優子、中村佳代、キーセッション
看護の技を磨く、看護の技の普及：背面開放座位を臨床で導入して、日本看護技術学会第10回学術集会、2011年10月29日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計1件)

名称：前傾端座位補助機能付サイドレール
発明者：大久保暢子 西田隆廣 牧野和央 井川典子

出願人：株式会社福光鉄工 学校法人聖路加国際大学

種類：特許

番号：特願 2016-03382

出願年月日：平成28年2月25日

国内外の別：国内

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ

聖路加国際大学看護ネット「起きるケアで寝たきり予防」

http://kango-net.luke.ac.jp/koureisya_kango/yobou/

アウトリーチ活動：座談会

大久保暢子、阿部浩明、中村佳世、森田功：

“起きる”をチームで支えよう！最終回

【座談会】“起きる”を支えるチームをつく

ってみよう、Nursing Today,26(5),12-15

2011年9月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大久保暢子 (OKUBO Nobuko)

聖路加国際大学 看護学部

研究者番号：20327977

(2) 研究分担者

菱沼典子 (HISHINUMA Michiko)

聖路加国際大学 看護学部 教授

研究者番号：40103585

中山和弘 (NAKAYAMA Kazuhiro)

聖路加国際大学 看護学部 教授

研究者番号：50222170

鈴木和代 (SUZUKI Kazuyo)

京都医療科学大学 医療科学部

客員研究員 研究者番号：70419456

(3) 連携研究者

青池慎一 (AOIKE Shinichi)

成城大学社会イノベーション学部 教授

研究者番号：2005178

(4) 研究協力者

佐々木杏子 (SASAKI Kyoko)

元聖路加看護大学大学院

博士後期課程

佐竹澄子 (SATAKE Sumiko)

慈恵医科大学医学部看護学科 講師

品地智子 (SHINAJI Tomoko)

札幌麻生脳神経外科病院 看護部長

中村佳代 (NAKAMURA Kayo)

藤田学園保健衛生大学附属病院

脳神経外科病棟 看護師

古川優子 (FURUKAWA Yuko)

藤田学園保健衛生大学附属病院

脳神経外科病棟 看護師